

平成23年度 長野県屋代高等学校 学校評価(職員による年度末評価) 平成24年2月実施

職員による中間評価 A:十分 B:概ね十分 C:やや不十分 D:不十分

25 屋代高等学校

評価指標 評価を A:4点(a人) B:3点(b人) C:2点(c人) D:1点(d人) と点数化し、25倍して100点満点で表示しました。

計算式 $25 * (4 * a + 3 * b + 2 * c + 1 * d) / n$ (総数) 総数(回収率) = 60(100%)

表の注 ◎ 当該分掌のまとめ ○ 学年・教科の意見 ・ 個人の意見

項目	評価の観点	成果と課題	中間評価指標	年度末評価
進路指導	進路指導体制の継承と発展ができたか。	◎進路1学年 学年発足時に旧学年との引継ぎ会を行い指導体制を継承した。進路指導の計画を他学年と共有しながら実施した。 ◎進路2学年 7月31日の「全国国立・有名私立大相談会2011」へは、175名の生徒が参加し、各自の進路目標実現に向けての大きな動機付けとなり、多くの生徒が刺激を受けた。又、初の試みである夏季休業中の学習合宿にも133名が意欲的に参加し、3日間に渡る長時間の集中学習を通して、学習の成就感を味わった生徒が多かった。 ◎進路3学年 進路室と学年で連携を取り、進路指導体制の継承をすることができた。 ○3学年 年間計画に沿って、定期的に係の先生による進路講話・進路室面接をしていただき進路・学習についての意識付けを行なうなど、卒業学年の手法を継承しながら、学力の充実を図る取り組みを徹底した。 ・進路室に教員が常駐していることが進路指導のノウハウを継承するのに重要なポイントになっている。	89.2	92.9
	進路情報を生徒・保護者に向け有効に発信できたか。	◎進路1学年 入学時、保護者から「屋代高校に対する願い」を書いていただき、気持ちを共有してスタートできた。文理講演会、進路レポート(進路研究)、文理選択などにより、1年生の時期に必要な進路を考える機会をつくとともに、学年通信を通して、学年全体で同一目線で進路情報の発信をすることができた。 ◎進路2学年 学年通信を定期的に発行し、学年全体を一つのクラスととらえ、進路情報の発信をすることができた。教育実習生と語る会、進路講演会、屋代ミニ大学等の行事を通じて各種進路情報を生徒に提供することができた。 ◎進路3学年 学年通信を有効に発信し進路情報を効果的に提供することができた。 ○3学年 2月15日現在、学年通信を98号まで発行。進路情報ばかりではなく、学ぶことの意義や将来の自分を考えさせるなど啓蒙的内容を多く掲載した。生徒ばかりではなく保護者にもよく目を通していただいた。 ○2学年 学年通信で有意義な情報提供と学習への動機付けができた。 ・定期的学年通信の発行、およびホームページ等を通して保護者にも進路情報を逐次発信することができた。	90.7	93.3
	全教科にわたる総合的学力を養成し、国立大学を中心に進路実現の可能性を拡げることができたか。	○1学年 調査や模試の結果を教科毎や全体的な分析をし、高校生としての学習習慣の定着を指導した。 ○2学年 模試終了後、分析会を行い、各教科で弱点となっている分野を明確にし、教科指導で活かすことを試みた。 ○3学年 朝や放課後の補習、立志館の理社の授業等を通して総合的学力を養成することができた。 ・夏休み以降は理社の学習と記述力養成に力を入れ、国立大学受験に向けて総合的学力をアップさせることができた。センター特編の成果が現れている。	89.2	90.8
	生徒の学力や生活実態などの情報を把握した上で、集団と個々に応じた指導に活かすことができたか。	◎進路1学年 通常の面接週間に加え毎月1回のミニ面接を行い、わずかな時間ながら生徒の状況を把握し、個々に応じた指導助言をすることができた。 ◎進路2学年 4月のStudy Support、6月と12月の生活実態調査で、学年全体の傾向を把握し、各HRや個人面談に活用することができた。 ◎進路3学年 模試分析会や出願検討会を通して情報を共有し、定期的な面談以外にも可能な限り生徒との面談の機会を確保し共有した情報を有効活用することができた。 ○2学年 生活実態調査や個人面談を通じて指導してきたが、進路目標の決定や学習への取り組みに効果があったように思う。 ・進路検討会や模試分析会を行って担任および教科担当者で情報の共有を図ることができた。	88.2	90.8
学習指導	授業改善に向けて授業評価を行い、その結果を授業に反映させることができたか。	◎学習指導 今年度は9月の前期終了時点で実施した。基本の書式を提示して、各教科担任が必要に応じて加工出来るようにした。昨年同様、授業評価を行うことは先生方に強制はせずに各先生方の裁量にまかせている。生徒の反省も参考にしつつ、授業に生かすという観点から実施をお願いしている。今年度の実施率は55%であった。 互いに授業を見合う相互研修は、時間に追われる状況の中ではなかなか難しいのが現状である。 ○2学年 毎日の数学の宿題プリント提出は成果が見られた。	83.3	85.4
	基礎学力の定着をめざし、家庭学習が充実するよう、十分な指導を行うことができたか。	○3学年 各教科で工夫し、家庭学習と授業が結びつくように宿題や小テスト等を課した。成果が出たと思う。 ○1学年 月ごとに自宅学習時間の記録票を渡し、担任が適宜学習時間を確認しながら家庭学習時間を確保させようとして指導した。また、夏休みと冬休み前、それまでの学習成績を記載した「学習の記録」を配布し、保護者から意見をもらうなどして家庭との連携を図った。 ○英語科 3学年英語は習熟度授業を実施して2年目になるが、基礎学力の定着及び上位を伸ばす授業展開が可能となり、徐々にその成果が現れてきている。	85.3	84.2
生徒指導	通学中の交通事故をなくす努力ができたか。	◎始業式での講話、交通安全立ち番・1学年全員対象交通安全教室、自転車盗難防止モデル校指定(4月)、交通安全街頭指導(5・7・9・11月)、各集会での講話、インターネット等における情報モラル・犯罪防止の指導など、学校内外で安全な生活を送るための指導・啓発活動を昨年以上にやってきた。前期までの交通事故件数は昨年を大きく上回り、15件の報告があった。いずれの事故も大半は正規の通行をしている自転車への自動車の接触で、幸い大きな怪我に至らずにすんだ。 ◎校内駐輪場から自転車が減り、駅などで発見されることが続いた。すべて未施錠であり、最低限の自己管理が必要である。 ◎自転車の乗り方、交通法規の違反行為等でお叱りを受けることが少なからずあった。 ○1学年-4月の自動車学校での交通安全教室はよかった。	81.4	86.3
生徒会	質実剛健の風風を大切に、充実した活動を行うことができたか。	◎生徒会 役員生徒はよくまとまり、鳩祭も仮装行列を復活させた。班活も9割以上の生徒が加入している。 ◎役員を中心とした働きかけを通じ、生徒会への関心を高める。校内美化や交通安全に関する活動は一層の充実を求めたい。	89.2	88.8
校内美化	生徒が自主的に校内美化を進められるように、指導・支援を行うことができたか。	◎厚生 清掃監督者と担任との連絡を密にして全員清掃の意識を高めていきたい。また、生徒の中には、校内美化に対する温度差が感じられる。中学生も入学してくることもあり、整備委員会を中心に生徒に対する働きかけのことも一層必要になる。 それと同時に、清掃用具の質的・量的充実も考えなくてはならない。 ○3学年 クラス担任を中心にして毎日の清掃指導を熱心に行った。 ○2学年 予算不足により、清掃用具の更新が困難。質、量とも改善を要するか。 ○1学年-7月に「生徒自ら行う環境整美事業」として教室内の壁のペンキ塗りを行い、教室内が落ち着いた感じになった。 ○1学年-ロッカーの上に物を置かないようにして、公共的な場所を私物化しないように指導し、生徒もよくそれは守っていた。	72.5	68.3
学校運営	新しい学校づくりに向け、教育課程やSSHのプログラムについて研究を行うことができたか。	◎SSH Ⅲ期SSHの研究開発課題における生徒の主体性、創造性の育成を意識した事業改善に努めた。少しずつ効果が出ていたので引き続き研究していく。 ◎教育課程 24年度から一部(数学・理科)で始まる新教育課程の課程表作成、および55分授業移行に伴うコマ数の決定ができた。	90.2	91.3
	本校の教育活動の成果を、保護者、小中学生、地域に伝え、特色ある学校として理解してもらったか。	◎中高 広報と連携し、附属中の特色を伝えられる学校説明会および入試説明会を実施することができた。 ◎広報 今年度は新たに、4月の段階から学校開放の年間計画を小中学校へ個別に郵送したりHPへも掲載を続けた。また学校パンフレットや体験入学用ポスター、県のHP(特色ある教育活動)、屋高の窓(駅掲示板)なども新規に作成し直し、本校の姿をより広く深く周知していただくことを心掛けた。こうした取組により、次年度入学予定の小学校6年生、中学校3年生を中心に授業公開、体験入学、学校説明会などへの参加者を多くお迎えすることができ、屋代高校の求める生徒像や学校方針をご理解いただくことにつながった。 ◎教務 一層のHPの充実が図られ、屋代高校の特色を地域等に十分伝えられている。 ◎SSH 引き続きSSH通信の配布や広報係との連携を密にしていきたい。	90.7	91.3